B23 実験条件下で観察されたフタトゲチマダニ成虫の行動休眠

藤本和義（埼玉医大・医動物）

Behavioural diapause of *Haemaphysalis longicornis* adults observed under experimental conditions

Fujimoto K.

フタトゲチマダニ成虫は植生上では夏に活発な活動がみられるものの、秋にはその活動はほとんどみられない。これは低温による活動の低下とは異なると思われ、おそらく行動休眠によると推測された。そこで成虫の行動休眠の有無を調べるために、実験室内において、短日（10L-14D）と長日（16L-8D）で飼育した成虫の吸血活動を比較した。その結果、短日で飼育した成虫は長日で飼育したものより、宿主のウサギに対する吸血活動性が明らかに低かった。また、屋外に置いた成虫（長日条件で飼育）を使って、吸血活動の季節的変化を調べた結果では、成虫は夏（7～8月）には宿主のウサギに対して活発な吸血活動を行ったが、秋（10～11月）にはその活動を急激に低下させた。これらの結果から判断して、フタトゲチマダニ成虫の秋の不活動は秋の短日に反応した行動休眠が原因と考えられた。

B24 沖縄県の病院の室内塵中ダニについて金城直美、武田富美子、當間孝子、宮城一郎
（琉球大学・医・保健）

Studies of the house dust mites in hospitals, Okinawa

Kinjo N., Takeda H., Toma T., Miyagi I.

沖縄県内の病院におけるダニ数、ダニ相を明らかにする目的で調査を行ったので結果を報告する。沖縄県宜野湾市、浦添市、西原町にある耳鼻咽喉科外来を持つ1医院、3病院（以下区別せずに病院とする）を対象とし、サンプリングを、1996年5月と1997年2月の2回行い、床と寝具を500Wの家庭用掃除機で吸引して塵を得た。サンプル数は5月と2月を合わせて54である。ダニの分離はTakeda et al. (1995)の方法で行い、その後、生物顕微鏡下で同定した。病院の室内塵中ダニの優占種はヤケヒョウヒダニで、ヤケヒョウヒダニとコナヒョウヒダニの割合は、それぞれ73.3%と26.7%であった。ダニ数は、5月と2月ではほとんど差はなく、一般家庭より少なかった。しかし、寝具のサンプル24中14が1㎡あたりヒョウヒダニ100個体以上であった。